

令和7年度がんばる地域応援プロジェクト選考委員会 議事要旨

日 時：令和7年6月21日（土曜日）

発表会：午後1時～午後2時50分

選考会：午後3時～午後4時5分

会 場：三鷹市市役所第二庁舎4階 242・243 会議室（オンライン同時配信）

出席者：選考委員4名、発表者10名、発表団体関係者10名、事務局8名（NPO 法人みたか市民協働ネットワーク ネットワーク推進部会2名、NPO 法人みたか市民協働ネットワーク事務局3名、コミュニティ創生課3名）、傍聴人5名（Zoom 参加2名含む）

全 37 名

【配布資料】

- 1 令和7年度選考基準
- 2 申請団体一覧
- 3 各団体発表資料
- 4 当日のタイムスケジュール

【次第】

- 1 開会
- 2 選考委員紹介、選考委員長・副委員長挨拶
- 3 本日の進め方について
- 4 各団体による発表、選考委員からの質疑応答・講評
- 5 閉会
- 6 選考（非公開）

① 下連雀六丁目防災の会「みんなでたのしく！学ぼう防災」

(選考委員長)

・貴団体は永年にわたり防災をテーマとしてきたが、「学び」の切り口から取り組むのは初めてで、大学と連携したことでコンセプトが明確になったと思う。

・大学と連携した経緯、今後の消防団との連携の可能性についてどう考えているか。

(下連雀六丁目防災の会)

・杏林大学三浦ゼミとは、NPO 法人 Mitaka みんなの防災のイベントをきっかけに連絡し、一緒に活動できるよう調整を図った。消防団との連携については、当会の会長自身が三鷹市消防団下連雀第六分団の分団長を務めており接点はあるが、具体的な協力については今後検討したい。

(選考副委員長)

・地域の防災活動に近隣の大学生が関わる試みは、他地域にも参考となる新たな事例である。

・以前から協力関係にあった下連雀八丁目防災の会とは今回も協力するのか。

(下連雀六丁目防災の会)

・今年度も共催として協力して事業を実施する。

② 下連雀第一町会「防災セミナー」

(選考委員長)

・他市(町田市)事例では、地域住民の防災への関心は非常に高いが、それと同様に防犯、医療アクセス、地域福祉的支援に対する関心も高かった。今回は、防災の切り口から日頃の町会の活動を知ってもらおう取り組みであり、コミュニケーションを活発にし、支え合える関係づくりが重要である。

(下連雀第一町会)

・日頃のコミュニケーションは大切にしており、町会では定例的に防犯の夜警を実施するなどして顔見知りを増やす努力をしている。

(選考副委員長)

・防災には多くの住民が関心を寄せており、取り組みやすいテーマであるためコミュニケーションを取るきっかけとして適している。一方で、地域ではほかにも防犯などさまざまな課題もある。今回は防災セミナーという形から入ったが、同様の取り組みをさまざまなテーマで繰り返し実施し、コミュニケーションがどのように活性化したかの記録を残してほしい。

(下連雀第一町会)

・今回は日本赤十字社の方を講師に迎え、実際に止血や三角巾を使った応急手当をみんなで体験しながら、周りの方との会話を通じてコミュニケーションが高まることを期待している。

・さまざまな課題がある中で、今回の防災セミナーをきっかけとしてコミュニケーションを活発にし、今後も防犯、詐欺被害防止など、独居の高齢の方への支援やサポートなどにも取り組みたい。

(選考委員)

・防災の重要性は、多くの住民も認識しているが、地域の町会活動として行われる防災セミナーに参加を促す仕掛けづくりが難しい。今回、参加者には救急セットを配布するというので、良い工夫だと思っている。参考までにセットの中身を教えてほしい。

・広報に注力し情報共有に重点を置いていることは高く評価できる。

(下連雀第一町会)

・携帯用救急セットは、「ハサミ、爪切り、綿棒、絆創膏、簡易的な包帯」など日頃から使えるものとした。町会ではこれまでも簡易トイレやソーラー発電装置などさまざまなグッズを配布してきた。救急セットが大規模災害の際に劇的に役立つということはないかも知れないが、日常の備えへの意識向上や、イベントへの参加のモチベーションとなるよう配布することとした。

・広報では見やすさ、わかりやすさを重視し、町会を知ってもらおうきっかけとなるよう意識している。

・昨年の餅つきは家族連れを中心に参加してもらったが、今回の内容は子どもと一緒に参加は難しいと考えており、高齢者が主な参加者層となると考えている。

③ 上連雀友和会「町会盆踊り大会で Win Win」

(選考委員長)

・町会側、おやじの会の側双方に連携したい課題があったことが伝わり、「盆踊り大会で Win Win」というネーミングはまさにそのとおりであると感じた。

・学校主導のコミュニティづくりについては、三鷹市でも永年にわたりコミュニティ・スクールの取り組みを行っているが、学校の側からも地域の動きに関与しようとする動きを強めているのではと想像している。今回の取り組みでは学校との連携についてどう考えているか。

(上連雀友和会)

・今回、学校と直接の協力は予定していない。ただし、以前から青少年対策地区委員会（青少対）の方が交通整理や見守りに協力してくれている。代々、地域の安全や防災、防犯に取り組む中で積み上げてきた関係性の賜物であると思っている。

(選考委員長)

・祭りの主宰者が町会であることを知らない、というアンケート結果がある。今回の協力事業を通じて、子どもたちに知ってもらえるメリットもある。

・東京の青少対は学校と密に連携しており優れた制度設計になっているので、学校との連携を強化していく伸びしろは多いと感じている。

(選考副委員長)

・背景の異なる組織と連携体制を作ることは良い挑戦である。地域にはさまざまな組織があり、多くの人が住んでいるのに、色々な所で人手が足りないという事象が生じるのはなぜかと課題を感じる。町会はおろか地域全体で 20 人ぐらいしか人が住んでいないようなところでは、盆踊りができないと言われれば、確かにそうだと思うが、たくさんの組織や人がいるのに、人手が足りないのであれば、旧来の組織体を越えた連携が大事になる。おやじの会と組んで、その次はコミュニティ・スクールとの連携を模索してみてはどうか。

(上連雀友和会)

・活動自体は従来から町会で支援している野球部（三鷹タイガース）の監督、コーチや消防団の方をはじめ、その繋がりでも地域の二代目、三代目の方も関わってくれているが、町会員にはなっていない方も多いため、積極的に勧誘したい。

④ 井之頭町会「オール井の頭～みんなで楽しむ70祭!!～」

(選考委員長)

・井の頭音頭と文化的背景を地域で共有することや、いくつかのイベントをシリーズ化して訴求力を高める充実したプランである。井之頭町会はタイミングを捉えてここぞというときに提案している。今回は町会の70周年記念事業としての応募で、制度を上手く活用いただきありがたい。

・町会創立70周年記念事業を大々的に実行しようという機運が高まったのはいつ頃か。

(井之頭町会)

・かつて、50周年の際には会員に記念品を配布した。その後も、記念事業に併せて物を配布する例が多かったが、たくさんの方に関心を持ってもらい、町会員になってもらうには、単に物を配るのではなく、町会の活動そのものをみなさんに知ってもらいたい。そこで役員で検討した結果、今回の事業の形になった。

(選考副委員長)

・本選考委員会の直後に始まる事業の審査をするのはややハードルが高いが、地域の伝統を復活させようという機運が生まれたことは興味深い。

・踊りのプロセスを映像で記録し保存することは考えているか。

(井之頭町会)

・練習風景などを動画に残し、ホームページで公開し会場に来られない方も踊れるように検討している。

(選考副委員長)

・町会創立70周年のときはどんなことをしたのか、現在の「井の頭音頭」の記録があると後世の方が参考にできるので、記録しておくといい。

・この事業を契機に、地域の幼稚園などさまざまな組織と関係を構築してほしい。

(井之頭町会)

・既に明星台幼稚園にチラシを配布し参加を呼び掛けている。幼稚園も創立70周年であり、一緒に練習をしようと相談している。

(選考委員)

・町会、地域における世代間の分断が大きな課題である。こうした現状に対し、どう取り組めば良いかと相談を受けることもあるが、今日の発表の中にあるよう、同じ地域に暮らす人々が共通の理解を共有できる題材として、地域の歴史的なものを活用するのは方策の一つだろう。どこの地域でも探せば何か魅力的なコンテンツがあるのではないか。それを使ってイベントを実施し、楽しむ、学ぶ、集うなど、いろいろなパターンで展開していこうとする工夫が光る。観光的な視点でもおもしろいので、例えば観光協会に協力してもらうなども考えられるのではないか。

⑤ 牟礼南町会「続・町会復活プロジェクト」

(選考委員長)

・一旦無くなった町会を復活させるという困難なプロジェクトに取り組んでおり、実際に復活にこぎ着けたことは素晴らしい。一度無くなったものを復活させるのは非常に大変なことで、引き続きぜひ頑張ってもらいたい。

・町会の存続と発展には、生活に根差した組織として、生活上のニーズに応える必要があるが、具体的に何から着手すれば良いのか、まさに今教えてもらっている。まずはコミュニケーションを活発にし、挨拶ができる環境を整えていくことが大切という考えは理解する。まだ当面はこの状態が続くと思うが頑張ってもらいたい。

全国的にも町会・自治会の解散が増えているので、どうしたら復活できるのかという先進事例となっていきたい。応募いただいた事業は1年単位のものだが、ぜひ長いスパンで考えていただきたい。

(選考副委員長)

・提出された計画では、神明社のお祭りの際にバルーンアートを作ることができる人を増やす、と目標に掲げているが、どのように実施するのか。

(牟礼南町会)

・神明社の祭りが10月4日(土)・5日(日)のため、それまでにバルーンアートを作れるスタッフを増やし、祭りに挑みたい。

(選考副委員長)

・こうした地域型のイベントは、子どもたちの夏休みに併せて実施すると小学生が参加しやすいのではないかな。

(牟礼南町会)

・発表した以外の日程については引き続き検討する。

(選考副委員長)

・復活した町会の趣旨として、運営に取り組んでいる人が楽しいのか、仲良くなれるのかを見せていくことが、次の担い手づくりの観点から重要である。

・勤務先の大学生の様子を見ていると、地域のさまざまなインフラが誰に、どのように支えられているのか知らない学生が少なくないと感じる。お祭りなども、大きなイベントを実現するために誰がどのように汗をかいているのか、実態のイメージがわからない人が多い。参加する学生たちにとっても、単なるボランティアではなく、一緒に苦労し一緒に楽しむ達成感を得る場となることを期待する。

⑥ 井の頭一丁目町会「町会を超えてつながる三鷹台 第2弾」

(選考委員長)

・毎年さまざまな工夫と努力がみられ素晴らしい。昨年度からは隣接する三鷹台二丁目町会と連携し、三鷹台駅周辺地域を一体的に発展させようと、町会らしい取り組みをしている。今年は商店会も巻き込んで、更に工夫されている。

・地域内の自主グループの立ち上げについて、他の自治体では保健師などが行う例があるが、この地域での見通しはどうか。

(井の頭一丁目町会)

・自主グループはたくさんあり、町会がグループの立ち上げを支援している。今後は三鷹台二丁目町会とも一緒に取り組んでいく。

・三鷹台二丁目町会には三鷹台地区公会堂があるが、町会員でも知らない方がいる。新しい施設で、家族連れでも高齢者でも使いやすいため、町会員や地域の方にもっと知ってもらいたいとの思いから、そこを拠点とする自主グループを増やそうと考えた。昨年、乳児のいる世代向けの事業を行ったところ、今後もきれいな施設で子どもをのびのびと遊ばせたいという声が寄せられた。そこで、さまざまな自主グループが利用できるのだと知ってもらえるよう、今年も0～3歳の子育て世代を取込む事業を企画した。

・イベントを実施したきりで終わりではもったいない。イベントを通じてせっかくできた繋がりを継続させていく可能性が、自主グループ活動にはあると考えている。今年のイベント後に、赤ちゃんともっと遊びたいという母親の声があがったことを踏まえて、今年は自主グループを作ることで継続していける環境が整うと考えている。

(選考副委員長)

・事業数がこれまでより多く、長年の取り組みの集大成になると思う。個々のグループがそれぞれ独立して頑張っていけるようになれるといいと思う。

・商店会の活性化に関心がある。商店会が弱体化すると街中の明かりも減少し、駅前の治安が悪化する恐れがあると別の地域で説明を受けたことがある。商店会が地域のインフラの一角を担っている側面があるため、商店会の活性化に町会が一緒に取り組むことでいい結果ができれば先進的な例になると思う。

・「asobi 基地」企画については、本学では東日本大震災を機に始まった取り組みで、子どもが集う場所を作ることで地域のポテンシャルを底上げしようとする「部活」のような取り組みだと聞いている。

(井の頭一丁目町会)

・今年は「asobi 基地」の側から、夏休みに一緒に企画を実施したいと連絡を受けた。元々、来春の新一年生歓迎会について協力を依頼するつもりであったが、夏休みの事業も併せて快諾してもらえた。

・商店会との関係については、「三鷹台のまちづくりを考える会」が元々あったので連携しやすい。三鷹台駅前商店会には現在、若い経営者が増えており、個性的な店が増えて頑張っている。しかし、元々住んでいる方には敷居が高いため、商店会のイベントに併せて各店舗のアピールポイントを地図に起こし、スタンプラリーのように各店舗を回

った際に利用できる 500 円の金券を配布することを考えた。これを通じて、地域の魅力を発見してもらいたい。

⑦ 牟礼中町会「牟礼中町会：健康づくり講座とポールウォーク体験事業」

(選考委員長)

・町会の基本的な役割を明確にし、発展させる取り組みである。元々月2回実施していたラジオ体操会をベースに、地域の資源である杏林大学の先生の協力を得てさらに発展を目指した提案になっており、大変好ましい経過である。杏林大学との協力が実現した具体的なきっかけは何か。

(牟礼中町会)

・会長の個人的なつながりで、杏林大学が八王子にあった時代から10年来の交流があった。その中でポールウォークを経験し、スポーツ以外にも有効であるという考えに至った。

(選考副委員長)

・牟礼中町会は、以前から「会員同士のつながり」に注目し活動している。健康維持は高齢の方にとって重大な課題であり、その切り口からさらに地域のつながりが強化されてほしい。何か特徴的な工夫はないか。

(牟礼中町会)

・高齢者が何らかの事業に参加しようにも、距離があるとそれが障壁となってしまう。身近な範囲で気軽に集まれる拠点があればいいと考えているが、お手伝いできる方がなかなか集まらない。今のところ、牟礼一丁目、二丁目の地域に毎月2つの場所を確保して集まっているが、この集まりをベースに、地域の大学とも協力して若い世代の力を借りて取り組もうと考えた。

・町会活動が過渡期にあり、存続への危機感がある。経済的なコストを誰かが負担しないといけないが、それを無視した形では今後継続しないと考えており、このようなイベントを含めてコスト意識をもって進めていきたいと思っている。

⑧ 中原四丁目自治会「鷹南ファミリーフェスタ 2025」

(選考委員長)

・連携したら補助金が出るという制度は全国的で散見されるが、がんばる地域応援プロジェクトでは団体間の連携が事業の幅を拡げている提案が多く、たくさんの地域団体が連携しており素晴らしい。

・マンション管理組合では、管理会社任せで自主的な活動をしていないという事例が増えていると聞くが、イデオ管理組合がこうした地域活動に関わろうとした契機は何か。

(中原四丁目自治会)

・イデオは約 170 世帯のうち、6～7割が小・中学生のいる家庭である。そうした世帯は地域のお祭りの存在は知っているが、それがどう支えられているのか知らない方も多い。おやじの会に参加してくれる方もいるが、子どものいない世帯、高齢者世帯は地域の子どもたちと関わる機会がないので、見守りのような形で地域の方たちに顔を広めていきたい。

(選考副委員長)

・これまでの町会・自治会支援は、自治会がその力を強化したり新しい動きを作ったりするなど「停滞を止める」という発想が多かった。しかし、他に勢いがある団体と組むことで、町会そのものの活動にフォーカスするというよりは、地域全体の団体を調整する組織として存続を図る方法もあるのだと学んだ。自治会の事業に対する見方や関わり方が変わっていく可能性を感じた。

・マンションは子育てが終わると地域との関わり方が変わることが多く、子どもが大学生ぐらいになると、地域との関わりがなくなってくる傾向がある。うまく持続性を持たせられるとおもしろい。

⑨ 大沢宿町会「一日夢広場 2025」

(選考委員長)

・3年続けて、概ね共通のコンセプトで提案しているが、3町会間の連携が密になったなど具体的な効果や成果はあったか。

(大沢宿町会)

・3町会は元々深い交流があり、大沢住民協議会の活動を通じて各町会との連携も取ってきた。おやじの会やコミュニティ・スクールとも連携している。町会は地域で様々な役を担っているため、各種他団体との繋がりができ、声をかけると協力してくれる。国際基督教大学やルーテル学院大学とも場合によっては連携している。

(選考副委員長)

・事業としては完成されてきている印象がある。活動が始まった当初の地域課題は「子ども会の存続」とのことで、当初の目的を達成したのではと思う。この先の展望を教えてください。

(大沢宿町会)

・団体間の連携が取れるようになり、実施すれば必ず成功する定番のイベントとなった。町会としては最大のイベントで700～800人ほど集まる。最終的な目的は、若い世代に町会活動に顔を向けてもらいたいということで、この事業によって、一緒に町会に参加し、町会を存続したいと思ってもらうことを第一に考えている。

⑩ 下連雀若葉会「餅つき大会から始まる町会活動の活性化」

(選考委員長)

・「お父さんズ」と南浦小学校の関係構築など、青少年関係の団体との連携に向けてどのようにアプローチをしたか。また、会員 450 世帯のうち、活動していない世帯にはどのように周知を図っているのか。町会に加入していても活動には参加しない世帯への対応は重要な課題であるが、工夫があれば教えてほしい。

(下連雀若葉会)

・青少年対策地区委員会とお父さんズとの関係については、当町会の副会長が青少対の会長であり、六小お父さんズの立ち上げにも関わっており、従前からつながりがあった。今回正式に依頼したが、以前からぜひ遊びに来てほしいと声をかけていた。がんばる地域応援プロジェクトでは、団体同士で連携すると増額助成を受けられるため正式に依頼したが、以前から少しずつ交流はあった。

・活動に参加しない世帯の掘り起こしは非常に難しいが、今年 70 周年で記念冊子を作る予定。諸先輩から古い写真をお借りし、ヒアリングを実施した。昔は町会活動をしていたが、今は高齢で参加していない方との交流を深めようと今年は頑張っている。そうした方々の子どもや孫の世代に出てきてもらえればと考えている。

(選考副委員長)

・餅つきはさまざまな地域で行われる企画であるが、「おやじの会」のようなところは連携しやすいのか。選考会全体を通じて、他の団体も「おやじの会」との連携が多かった印象がある。町会員で推進役を担う方と、学校の保護者会などで中心となる方が重なっているからだろうか。

(下連雀若葉会)

・そうした傾向もあると思う。